

研究開発の状況

当事業年度における導入活動・研究(共同)開発活動の主な成果につきましては、以下のとおりです。

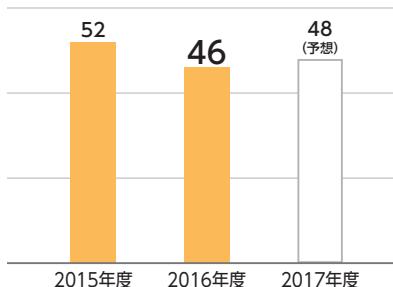
・高リン血症治療剤「リオナ錠」(JT開発番号:JTT-751)につきまして、JTと共同で、鉄欠乏性貧血を新適応症とする国内第Ⅱ相臨床試験を開始しております。

・2016年8月、JTと当社は、Menlo Therapeutics社と、同社が開発を進めてきたニューロキニン1(NK-1)受容体アンタゴニスト(国際一般名:serlopitant)につきまして、日本国内における独占の開発・商業化権に関するライセンス契約を締結しました。本剤の開発についてはJTと当社が共同で行い、販売については当社が行うこととなります。

・東レ株式会社(以下、「東レ」)が製造販売承認を取得し、当社が日本国内において販売中の「レミッチカプセル(血液透析患者における経口そう痒症改善剤)」(提携:JT)につきまして、東レは、2016年9月に日本国内における腹膜透析患者におけるそう痒症(既存治療で効果不十分な場合に限る)を適応症とした効能追加申請を行っております。

・2016年10月、JTが日本国内での臨床開発を実施しているJAK阻害剤「JTE-052」の皮膚外用製剤につきまして、日本国内における今後の共同開発及び販売に関する契約を締結しました。本剤の開発についてはJTと当社が共同で行い、販売については当社が行うこととなります。

研究開発費の推移 (単位:億円)



主な研究開発品 (2017年2月2日現在)

開発番号 [製品名]	予定適応症等
JTT-751 リオナ錠	鉄欠乏性貧血

アレルギー領域

TO-203 ミティキュア ダニ舌下錠	室内塵ダニアレルギー疾患 (アレルギー性喘息) (アレルギー免疫療法薬)
	室内塵ダニアレルギー疾患 (小児アレルギー性鼻炎) (アレルギー免疫療法薬)
TO-206	スギ花粉症 (アレルギー免疫療法薬)

上記のほか、以下の契約を締結しております。

- ・2016年 8月 Menlo Therapeutics社が開発契約(JTとの共同開発)
- ・2016年10月 JTが日本国内での臨床開発を



新薬ができるまで



新薬の候補物質が新薬として認められる確率は約3万分の1と言われており、専門家による厳格な審査を経て、国からの承認を受けてようやく医薬品として世に送り出すことができます。



剤形等	開発段階(国内)					備考
	PhaseI	PhaseII	PhaseIII	申請	承認	
経口剤		PhaseII				<ul style="list-style-type: none"> ●ケリックス社と日本国内における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結 ●JTとの共同開発 ●JTが2014年1月17日に製造販売承認取得 ●高リン血症治療剤として販売中
舌下錠	PhaseII/III終了**					<ul style="list-style-type: none"> ●ALK社と日本国内における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ●自社開発 **今後の開発方針について検討中
舌下錠			PhaseIII			<ul style="list-style-type: none"> ●ALK社と日本国内における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ●自社開発
舌下錠					申請	<ul style="list-style-type: none"> ●自社開発 ●2015年12月25日に製造販売承認申請

を進めているニューロキニン1 (NK-1) 受容体アンタゴニスト(国際一般名:serlopitant)の日本国内における独占的開発・商業化権に関するライセンス実施しているJAK阻害剤「JTE-052」皮膚外用製剤の日本国内における共同開発及び販売に関する契約